

# 電友会四国連合会報

第 17 号

77. 1

## 目次

年頭にあたって……………	四国電気通信局長……………	二	
年頭のごあいさつ……………	電友会四国連合会長……………	二	
表紙のことば……………	莊野丹秀……………	三	
電友会四国連合会総会の開催……………		三	
各県退職者の会総会記(高知・徳島・愛媛)……………		四	
秋の叙勲・電信電話記念日の表彰……………		五	
共済会だより四……………		五	
特集……………	巳年は語る……………	六	
伊賀上鬼子雄……………	市原功……………	鶴久森春信……………	小島諫……………
岡内唯志……………	日下久雄……………	竹島久寿秀……………	永井佐加一……………
合田勇……………	中浜良雄……………	福本豊……………	三島富二……………
路倉ただお……………	横山竹義……………	今田謙三……………	岩田春男……………
上田良春……………	高木靖登……………	木野戸繁行……………	豊崎理平……………
福井数由……………	藤田尚輔……………	政本邦興……………	柳川貞光……………
俳句……………	(三島花人・玉川つとむ)……………		三
随筆……………	(田中義隆・栗田信雄・原昭二郎)……………		三
会員消息……………	藤田基孝……………		三
短歌……………	山内旬一……………		一四
共済会の電話番号の変更……………			一四
余栄・訃報……………			一四
編集後記……………			一四



# 年頭にあって

四国電気通信局長

原 田 阿久利



電友会の皆様、  
あけましておめで  
うございます。  
皆様方には益々ご  
壮健で新年を迎え  
られ心からお喜び  
申し上げます。

「初暦 まだ見ぬ月日の  
美しき 信子」  
この一年が皆様方にとつてよい年でありま  
すようお願いいたします。

旧年中は皆様方から多大のご協力とご支援  
を戴きました。お蔭をもちまして永年の懸案  
であった料金問題も解決し、澄みわたった新  
春の天空のような晴々とした気持ちで新年を迎  
えることができましたことは、ひとえに、皆  
様方の絶大なご協力、ご支援の賜物とあらた  
めて厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

また電友会は年を重ねることに益々ご発展  
を続けられ誠に「同慶にたえません。心から  
お喜び申し上げます。

今年こそは、確立された経営基盤の上にな  
って一層企業努力につとめ、お客によるこぼ  
れる温いサービスに徹し、四国の電信電話の  
発展に全力投球しなければならぬと堅く心に  
誓っておる次第です。

ご存知のように電電公社は発足のときにす  
ぐつく電話の体制を確立することと、全国ど

こへでもダイヤルで通話ができるようにする  
ことの二つの目標をかかげ爾来今日まで五次  
にわたる五ヶ年計画を実施してまいりました。  
四国の電話も一三万となりいよいよ五二  
年度末にはすぐつく電話の体制が確立される  
ところまでまいりました。終戦の壊滅的な状  
況のなかから電信電話の復興に寝食を忘れて  
とりくまれた先輩方、これをひきつがれて益  
益発展のために、難路をきりひらいてこられ  
た先輩皆様方の強い使命感とご努力のお蔭で  
皆様も夢にまでえがいてこられたこの歴史的  
瞬間を私たち後輩が自らの手で迎えようとし  
ておるわけでありまして、まことに光栄なこ  
とであり必ず有終の美をかざるよう最後の一  
年を頑張ります。

またダイヤル化一〇〇パーセントの達成も  
五三年度末とこれも至近距離に迫ってまいり  
ました。これにつきましても万全の準備をす  
すめて必ずご期待に沿うよう努力いたします。  
私はいつも皆様方の若々しいお元気なお姿  
に接して、皆様方にあやかっ「若さば力」  
をモットーに更に頑張らねばと自らを鞭うっ  
ております。そして当通信局も全国的に内外  
共に若い通信局というイメージを誇ることが  
できるような仕事から進めてきております。

失わないよう従来から進めてきております。  
青い空、青い海、さんさんと輝く太陽のも  
と美しい自然と人情にめぐまれた四国。待望  
の本四架橋も着工をみてその未来に、無限の  
発展性をひめてある若い四国であります。  
私たちの通信局もこれにあやかっ若い通信  
局でありたいわけでは

皆様方は私達の最大のよき理解者であらせ  
られると共に地域社会の有力な実力者であら  
せられます。なにとぞ今後共一層のご支援、

ご協力をおねがいいたします。  
最後に皆様方のご健康とご活躍なら  
びに電友会の弥栄をお祈り申し上げ私の新年  
のあいさつといたします。

# 年頭のごあいさつ

電友会四国連合会長

泉 節太郎



会員の皆さん、  
明けましておめ  
うございます。  
元気でよい  
年をお迎えにな  
りましたでしよ  
うか。

四国の電電退職者の数は、昨年十月現在で  
九二〇名に達しました。概数で約一千名とい  
ってもよいかと思えます。しかも会員は年々  
増加の傾向を見せております。従って、電電  
退職者の会は年々盛んになることが予想せら  
れ、ご同慶の至りに存じます。

さて、四国における退職者の数が一千名と  
なれば、数でこなすことのできる問題は、比  
較的容易になってまいります。

ところで本年は、ご承知の通り、参議院選  
挙の年であります。われわれは、われわれ退  
職者のために、特に恩給・年金の改善のため  
に尽力してくれる、よい議員を選ぼうではあ  
りませんか。

次に、われわれの職場のふるさと、電電公  
社への協力も、この多数の力によって、より  
強力に進めることができる、と思えます。

電電公社は、今年度に引き続き、来年度においても、特別電債を、二カ月に一回発行する所であり、公社は諸計画の推進に必要な資金を得るために、電債の完全消化を望んでおり、電電OBにも応分の協力を要請してきております。

もちろん、この債券は、証券会社を通じて一般に販売するものでありますので、余裕のある方は、この会社（証券会社ならどの会社でも取り扱っている筈）を通じて、できるだけ多く買ってあげて下さい。

昨年も会報を通じ皆さんにお願いしたところ、第十七回特別電債（六月から七月上旬売出）発行の際には、電電OBの方が、三〇〇万円ほど、また第十八回の時は二八〇〇万円ほど買っていただき、四国は全国的に見ても優秀な成績を収めたこと、通信局から感謝せられております。

もともこの債券を買うことは、公社に対する大きな協力であるとともに、また一面、買った人の貯蓄ともなるわけで、一挙兩得であります。

公社は昨年、電信電話料金値上法案の国会通過が、予定よりだいぶ遅れたため、財政的に非常に苦んでおります。どうか皆さん、よろしくお願ひ申し上げます。

表紙のことば

白梅 莊野 丹秀（内海）

梅の花は初春の心温まる思いがする。

ことに古木に咲く白梅は庭の王者の姿

がする。そんなとき一時軒端雀がチュチュ

と飛んで来れば人の心に春遠からじの

いぶきを感じさせます。

○扶養控除等申告書はお出しになりましたか  
会報第十六号掲載の「忘れてはならない年金ごよみ」にあるように、該当する方は一月十日までに四国電気通信局職員部厚生課長あて提出してください。余白に証書の記号番号と自宅電話番号をお忘れなく。

電友会四国連合会総会の開催

去る一〇月二十九日、高松市の川六ホテルにおいて第五回総会が開催された。出席者は連合会役員と各県の会から選出された代議員を併せて五九名であった。

会は泉会長のあいさつで始まり、原田四国電気通信局長から鄭重な祝辞をいただき西村尚治参議院議員のメッセージおよび祝電並びに長田裕二参議院議員の祝電披露のあと香川電友会選出代議員野崎三郎氏が議長となり次の議案について討議を行ない、いずれも原案のとおり、承認または決定された。

- 一 昭和五〇年度会務報告
- 二 昭和五〇年度決算報告及び会計監査報告
- 三 昭和五一年度事業計画
- 四 昭和五二年度収支予算

総会終了後ひきつづき同ホテルにおいて総会出席者と、香川電友会員との合同懇親会が開催され、各県の会と地元電電公社との交歓の有意義な会となった。

この総会開催に当り、電電公社および地元香川電友会から格別のご協力ご配慮をいただきました。厚くお礼申し上げます。

昭和52年度 収支予算書  
(52.4.1~53.3.31)

昭和50年度 収支決算書  
(50.4.1~51.3.31)

収入の部	
項目	金額
繰越金	32,000
会費	91,000
賛助金	520,000
パッチ販売金	30,000
雑収入	6,000
合計	679,000

支出の部	
項目	金額
電退連分担金	30,000
旅費交通費	76,000
会報発行費	520,000
会議費	15,000
総編集委員会	5,000
	10,000
事務費	25,000
通信品	10,000
印刷費	3,000
その他	12,000
雑費	3,000
予備費	10,000
合計	679,000

収入の部	
項目	金額
繰越金	77,315
会費	78,900
賛助金	438,880
パッチ販売金	10,400
雑収入	11,028
合計	616,523

支出の部	
項目	金額
電退連分担金	20,000
旅費交通費	31,300
会報発行費	438,880
会議費	3,500
理事委員会	0
編集委員会	3,500
事務費	39,162
通信品	14,240
印刷費	5,032
その他	16,000
	3,890
繰越金	83,681
合計	616,523

昭和五十一年度 事業計画

電友会四国連合会は、各県の会相互の連絡を密にし、会員の生活の安定、福祉の増進を図り、あわせて電信電話事業に寄与せんとする会の目的達成のため、本年度においては下記施策の推進をはかるものとする。

- 一 恩給・共済年金受給者の処遇改善に関し前年度に引き続き関係方面に陳情運動を強力に展開する。
- 二 電友会四国連合会の総会を開催する。
- 三 生存者叙勲の範囲拡大について引き続き電退連を通じ関係方面へ要請する。
- 四 現行の医療共済制度の下では、部内医療機関のない地域ではその恩恵に浴し難いので何等かの方法により救済されるよう引き続き電退連を通じ電電公社へ要望する。
- 五 連合会会報の一層の充実をはかる。

高知県電電公社退職者の会 第十五回総会の記

去る一〇月二三日の第二十七回電信電話記念日の当日午前八時三〇分より市内城西館大広間に於て開催。

まず木下通信部長に祝辞を載き、新会員の紹介、喜寿該当者への祝金贈呈に引き続き議事にはいり、執行部提案の九議案を原案通り可決した。最後に会長選挙に入ったが緊急動議により留任が決定し引続き役員指名が行なわれた。その結果、副会長吉村正喜、幹事滝沢一郎、新芳太郎の諸氏辞任に伴い副会長の一名は欠員のままとし、山下道雄、北村束稲の両氏を役員に指名、他は留任となった。尚、従来の会計監査の大和八郎氏は幹事に、その後任は北村束稲氏に決定した。また連合

会理事は留任となった。

電電徳島温古会第十五回

総会の記

快晴に恵まれた一〇月二六日午前一〇時徳島駅前阿波観光ホテルで開催された。

出席者は総会員二三名中一〇三名。冒頭物故会員に黙とうを捧げ、ご冥福を祈る。豊崎会長あいさつの後、賀川通信部長のあいさつをいただく。公社事業の現況をつぶさに承わり、われわれ会員の役割の認識を新たにすものがあった。

新顧問、新会員の紹介後、原重雄氏を議長に選び議事に入る。古稀、喜寿を迎えた方々に記念品と祝詞が贈られたあと、五〇年度業務報告、同収支決算報告が承認され、五一年度事業計画が決定された。続いて役員改選に入り、豊崎会長が再選され、以下役員も全員留任となって議事を終了。このあと記念撮影をして総会を終る。

総会后、同ホテルで徳島通信部長招待の懇談会が開かれた。賀川部長からごあいさつがあり、豊崎会長が、一同に代って謝辞を述べ、懇親パーティーに這入る。歓談に花が咲き、自慢のかくし芸も出て、大いに歓を尽し、いよいよたけなわとなって、午後三時、土橋晴義氏の音頭で万才三唱し、来年もまた元気でと再会を祈りつつ散会した。(南峰記)

愛媛電友会第十五回総会の記

好天に恵まれた十一月六日、愛媛電友会総会を、ホテル奥道後で開催した。会員二三〇名が出席し、堀内善一氏を議長にして総会に入る。

愛媛通信部長から祝辞をいただき、その中に電信電話事業の近況と、電電債の消化に対するOBの協力に謝辞を述べられた。議事に入って、五一年度の会務報告と会計報告が承認され、五二年度の事業計画と収支予算が決定し、会則改正案が審議されて、来年の十月から会費を二千円とすると共に、慶弔費の一部を増額することが認められた。長寿会員に記念品を贈呈し、役員改選(会長、副会長を再選、幹事中一部交替)して総会を終る。

総会后同ホテルで、愛媛通信部長招待の懇談会が催された。在松山の各通信部の幹部と県下の報話局長のお世話で、歓談の花が咲き、また来年もと互いの健康を祈りつつ乾杯のち散会した。

謹賀新年

昭和五十二年元旦

電友会四国連合会

理事	泉 節太郎
会長	赤 刳 正
副会長	猪 谷 嘉 夫
	豊 崎 二 三 男
	小 島 照 一 一
	友 沢 照 一 一
	香 川 保 一 一
	越 久 田 保 一 一
	長 崎 輝 喜 之
	菅 崎 輝 喜 之
	齊 藤 五 郎
	玉 川 邁
会計監事	
事務局長	

共済会だより 四

社会福祉の向上に努力を続ける  
共済会

電友会の皆様には、すがすがしい新春をお元気に迎えられ、まことにおめでとうございます。

電気通信共済会では、すでに毎回ご紹介のとおり、幅広く社会福祉事業に取り組み、利用を手控えがちとなるので、利用状況等を「一応承知したい」とのご要望がありますので、別表のとおり最近の概況をご参考に供します。なおお知りあいの方などにも、お伝えいただくなど、お気軽に当会四国支部福祉相談所（電話松山〇八九九—三三—三三二二）をご利用願います。

秋の叙勲について

昭和五十一年秋の叙勲に電友会四国連合会長の泉節太郎氏が多年にわたり電信電話事業に貢献されたご功績により「勲四等瑞宝章」をお受けになりました。私共一同心からお喜び申し上げます。

○ 電信電話記念日の表彰

去る十月二十三日の第二七回電信電話記念日に愛媛電友会の赤川正氏が長年にわたり電信電話工事協会四国支部事務局長として協会の発展に努められ公社事業の円滑な運営に寄与されたご功績により四国電気通信局長より感謝状が贈られました。まことにおめでとうございます。

(別表)

福 祉 相 談 概 況

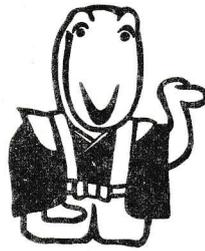
(金額単位千円)

年度別 項目別	49 年 度			50 年 度			備 考	
	申込件数	援助件数	援 助 額 貸 付	申込件数	援助件数	援 助 額 貸 付		
更生資金貸付	住 宅	1	1	300	44	12	3,218	
	生 業				11	3	900	
	医 療				3			
計	1	1	300	58	15	4,118	1 貸付限度は 30万円以内 2 利息月 0.2% 3 返済6年以内	
生活援助	生活補給	102	12	180	65	5	85	
	特別補給	94	33	946	68	22	540	
計	196	45	1,126	133	27	625		
よろざ相談	受 付	解 決	そ の 他	受 付	解 決	そ の 他		
	就 職	9	9		2	2		
	結 婚	3	3					
	土 地・住 宅	7	7		6	6		
	年 金	12	12		3	3		
	家 庭				2	2		
	医 療	48	48		96	96		
	生 計	109	109		80	80		
	育 英	20	20		45	45		
	借 金	1	1		72	72		
肢 体 不 自 由	22	22		9	9			
そ の 他	2	2		20	20			
計	233	233		335	335			
伊豆リハビリ入所相談	相 談	入 所	入所しない	相 談	入 所	入所しない		
	4		4	6		6		
育英貸付	申 込	決 定	辞 退	申 込	決 定	辞 退	貸付総額 1,784万円 月利3%以内	
	6	6		11	11			
肢体不自由者等金	受 付	贈 呈 者	贈 呈 額	受 付	贈 呈 者	贈 呈 額	見舞金3万円以内	
	40	40	1,200	49	46	1,260		
医療共済	医 療 機 関 員 利 用 延 入	3,122			4,485			S 51.10.31現在 加入数 763
	当 会 負 担 医 療 費	2,412			3,367			
	加 入 者	650			631			

## 特 集

巳年は

語る



私はこう思う

伊賀上鬼子雄（松山）

我が国では九月十五日を敬老の日と定め、ある期間敬老週間を実施している。然し老人が一ケ年に自殺する数は世界一位ということ、国の経済が成長しても自殺する老人の多いことを示している。だいたい老弱化した人間は一般に生活力がなく、不安な気持ちで苦しい生活をしている者が多い。老人福祉もだんだんよくなるだろうが、早急な期待は出来ない。そこで老人自身が生活を明るくするよう工夫しなければならぬ。これについて私はこう考える。

自分の健康状態や環境をよく考え、自適の生活を心がける。歩行運動や体操をして健康保持の増進を図る。和歌、俳句等の趣味、或は囲碁、将棋等の遊びにより生活を楽しめ、草花や野菜を栽培して今日の花を賞し、明日の結実を待つという生活をする。又老人同士相互扶助の精神で交り孤独に陥らぬようにする。悠々自適という言葉があるが貧弱な私は細々とつましく、分に安んじて長く、平安に生きていきたいと考えている。

## 巳年の思い出

市原 功（高松）

蛇はよく嫌われるこの嫌いはむしろ一般的なもののだが嫌い加減はかなり戦闘的で見つけるとすぐさま石やなにかを投げつけたくなる性質のものである、悪い事もしないのになぜこうも嫌われるのだろうか割の悪い運命である、私は幸今日まで余り嫌われた様にも思えず有難いと思っている。六回目の巳の年に当り過ぎし日の事どもが彷彿として浮んでくるなかでも戦時下での通信報国隊、在郷軍人会などの軍事訓練の困難さとその苦しさ、高松空襲のとき局の非常持出袋を抱えて降る焼夷弾の火の粉を払いながら逃げ続け夜明けを迎えた時の空虚さ、よくも命があったものだと今更に思う。

これからの余生は蛇のように嫌われず、嫌わず、憎まず、憎まれずに日送りをしたい一念である。

## 近 況

鶴久森春信（松山）

退職して早十数年の月日が経ってしまいました。私が採用になったのは昭和二年で社会の状況は非常な不景気の時で、毎日の暮しもまた苦しい時代でした。それから三十幾年を公社で過ぎしてもらいました。この間の思い出を一口に言えばまったく、喜びも、悲しみもありません。しいて言えば一番思いだしたくない思い出はあの永い戦争でありました。多難この上なしでありましたが、幸いに家族全員が揃って今日まで過ごし得られたことは有難いことと思っています。

電友会が出来た三十七年にはすぐ仲間入り

をしました。当時は会員も非常に少なく淋しい会でありましたが今では四〇〇人に近い大世帯となり、年一回の総会はこの上もない楽しみで久々に逢うなつかしい顔とお互の健康を祝い合う盆に過ぎ去った昔のあのこの事をよみがえらせ、生きるという幸をかみしめると共に電電一家と言う親しみをつくづく味わうのです。また家に送られる電友会報もうれしく有難く読んでいます。

今は家で元気で家事の手伝いをしていきます。そして健康こそ何物にも勝る幸せと自分をきびしくして、何事にもさわらず、自然そのものが一番よろしいと自分なりに思っています。年金も有難いことに年々増やして貰い、暮しに事欠くこともないのでこれからも健康で長生きを念じている最近です。

## 束の間の人生

小島 諒（高知）

友人Hが、「俺の伯父も行く、見に行かないか」と言うので、一緒に自転車を駆って高知と春野町を結ぶ荒倉峠へ出かけた。時は大正の末期、俺の叔父と言うのは、歩兵大尉で、高知の連隊の中隊長。行く先はシベリヤである。この記憶が自分達を戦争々々の記憶で塗りつぶした出発点の最初の一コマであった。

日本はこのシベリヤ出兵と言う無法極まる帝国主義的侵略を皮きりとして、上海事変、満州事変、日華事変、第二次大戦へと転落の坂路を、まっしぐらに駆け落ちたのである。こうした軍国主義、帝国主義は、内に向ってはどうす黒い独裁を必然化し、人民は口を開らくこと、聞く耳を持つこと、知るといふ当然の権利をはく奪され、灰色の人生を余儀なくされた。

たった一つの救いであったのは大正末期から、昭和初期にかけて、嵐のように巻き起った大正デモクラシーの時代である。が、これも伏字だらけの出版物に、向うはち巻で取り組むと言った今日では想像を絶する難行苦行を重ねての悪戦苦闘であった。

想えば悪い星のもとに生をうけたものであるが、こうした環境のたった一つの恩恵は、退屈を感じしめなかったことぐらいかも知れない。七〇年の歳月と言えば、気の遠くなるような長さである。にもかかわらずアツと言う間の、束の間の人生だったと思えない。

## 無 題

岡内 唯志（高松）

あけましておめでとうございます。

事故多発の中にあっても昭和三八年公社を卒業し爾来電話工事の請負会社八年次に繊維卸商社の六年目を今行進中、ふりかえってみると停年退職後十四年である。この間一日も休まず息災で来られたのも公社時代から仕事は人世の伴奏。口笛吹きつつの気楽さの性であったかもしれないしそれと公社退職時に小豆島八十八ヶ所巡り一〇回以上。四国霊場八十五番八栗寺百回以上参拝の目標設定が体調を整える唯一の方法であったとも思う。現在までの実績は島巡礼九回、八栗六五回でありこれは仕事の合間日曜を利用しての事である古い言葉にハメラというのがあるが老は足より。これが正論であると私は思う。今年はやや古稀を通り越し七十二の老青年である。小豆島はよいとこ一度はおいでよ!!八十八の寺や庵が待っている。

案内の自信は十分。待ってます。……健在であることのおかげのために一筆まで。

## なつかしかった一刻

日下 久雄（徳島）

今年の電友会四国連合会総会は高松で開かれたが、私も徳島から代議員として出席させていたたく機会を得て、思いもかけぬ人と会うことが出来た。

すでに、退職して十年以上も経っているのに、十年目、二十年目、三十年ぶりに、また大阪中電時代に別れて四十年ぶりにお会いした人もいる。なつかしさに、しばし久闊の言葉も出なかったほどだった。

彼等は頭に顔に昔の若さのおもかげはない。「おいぼれたなァ」「何を言う、お前こそ、えらいふけとるワ」と、笑い合う。もう何を言っても、言われても気にせぬのは老境にはいつている証拠であろう。

そして、大阪中電時代共に働いた同僚の計の話が出る。U君もT君もI君も死んだ、W君とN君は奥さんを亡くして元気をなくしているとか——。盃を手に入の計を話し合っているうちはいいのだが、他人にきたことは自分にもいつかは必ずやってくる。会員名簿の自分の名の上に、死亡と書かれる時が本当にやってくる。「長生きせいよ」「お前もなァ」としんみりする。

お互いに、その時に備えて今のうちに充分心の準備をしなければと思いつつ、久しぶりに会った友のことをなつかしみながら帰徳してきた。

そして、この原稿を書いていると、松山と高松から「お前、高松の総会に来ったのか、会えなかって残念だった」と電話してきた友もいる。

秋の夜の酒のむすべも知らず老ゆ

## ダリヤの花

竹島久壽秀（高知）

昭和五年晩秋の日曜日、鬱々とした心を抱いて大手門を抜け銀杏の葉が散り敷いている広場までくると公園の午砲が鳴った。晝飯かと杖を返して天神橋北詰の坂道を東へ五、六米降りると、北側の煉瓦塀の上に赤いダリヤの花が咲いていた。「笑っている」とつきにそう思った。急いで後戻りして近づけばやっぱり明るく笑っていた。「花が笑った」家路へ帰る松葉杖も軽かった。日課の高知公園花壇参りも、その翌日から花が笑っており明日は散るとも言っていた。

幾日過ぎたか小石につまづいてふと道端の小さい雑草を見ると元気に語りかけてくる。特に新芽が励ましてくれる。

人生観といえは大仰であるが、俗世が一転したように思え自然を見直し宇宙を考えたり無言の愛の偉大さを知り、自然児になろうと何事かに遭遇する度に、自然児だ自然児だと己に言いかけ、黙って聞いてくれる大地に語りかけ心を慰した。今まで避けて通った街並も人々の注視も、はりまや橋の交叉点も平常な心で渡ることができ殆ど腹が立たなくなった。右足切断三年目のことである。

昭和八年本当の意味での社会人となった。一年過ぎると花が笑わなくなり二年目は草が語らなくなった。三年経つと何にも分らなくなり次第に人並に腹が立つようになった。

あの時の状態を持続しておれば少しはましな人間になれたかも、と思いきや腹が詰るが、これもまた後のまつりである。

## 茶飲み友達の会の旅

永井佐加一（松山）

一泊二日で別府アフリカンサファリ見物の旅に出た。猛獣の放し飼いを車の中から眺める。車という檻の中の人間を猛獣がみているような変な錯覚に落ち入ってしまう。そこを出て阿蘇スカイラインを走り菊池温泉へと。一風呂浴びてきて待望の宴会となる。唄う、踊るの大騒ぎ、三味線まで携帯しての旅である。翌朝は誰がゆうべあの様に騒いだのでしょうと言うようなケロリとした顔で朝食をとっている。

またバスの客となり熊本城、水前寺公園へとまわり、やまなみハイウエー瀬の本高原にて山菜の昼食に舌鼓を打つ。一息入れてまた車中、こんどは三味線抜きの大騒ぎ、九重連峰由布高原と大阿蘇を右に眺めつつバスは湯の町別府へと突走る。船待ち四十五分、人員点呼異状なし。馬鹿大将の責任上積み残しては大事となるので。

船中旅館の宴会場と間違えたのでないかと思えばかりの大騒ぎ又三味線がとびだす始末四時間の船中も知らぬ間に過ぎなつかしの高浜港上陸、それぞれをタクシーに乗せながら又の日を約してバイバイをしたのは午後九時二十分であった。

茶のみ友達の会とは人生の伴侶を失なつたさびしい者同志の集いである。

## もう一回巳の年を

合田 勇（松山）

採用になったのは大正十年で、広島通信局松山電話技術官駐在所といういかめしい名前の職場でした。当時松山の電話加入数は六〇

〇程度で最終番号は大街道新栄座（今のパチンコホームラン）の八〇八番だったと記憶しています。仕事は線路、機械、電力関係で昔は徒弟制度みたいで、随分と厳しく苦労しました。作業内容は人の嫌う電池掃除や組立修理で、体によくない劇薬や金属類を扱います。なものは硫酸、重クロム酸加里、可性加里、水銀、鉛、錫、カドミウム等で、他にも沢山あります。電池充電の時は水素ガス発生で、呼吸器や内臓を悪くし、又高圧線に接触した時もあり、命拾いをしましたが、お陰様で大過なく四十二年間勤めさせて頂きました。三十八年退職しその後十二指腸手術をしてから体の調子が狂い貧血に悩まされ病院通いで薬から縁が切れません。家では孫の相手やつつじの世話や掃除やショッピング程度です。

物価は上るばかりですが年金も沢山頂くようになり、家は息子夫婦と同居で、娘夫婦や孫夫婦が毎月三回程集り一緒に食事するなど、孫や曾孫に囲まれて体の調子の悪いことも忘れ毎日楽しく幸福に過しています。現在息子が公社でお世話になっており、これで我家は三代に亘り公社にお世話になることになります。私も年が明ければ七二才で巳の年を六回迎えますが後もう一回迎えるまで元気であればと願っています。

## 偶 感

中浜 良雄（高松）

このところ日本人の平均寿命も延びて、古稀、喜寿はおろか米寿の老人も珍らしくない。古稀の典故は詩聖杜甫の詩句「人生七十古来稀」と言われ、作詩から千二百余年歳月の経過は詩情は別として、風化の感が深い。わが人生七十を過ぎ、喜びも悲しみも茫漠

の彼方へ、されど今なお喉に鮮烈に蘇るものは北九州の田舎町の街頭に不動低頭姿勢で聞いた玉音放送、ピカドン一月後の廢墟広島の惨状は、生涯忘れ得ざる情景である。

戦後三十年、人も物も激しく変転し、虚脱から復興へ、そして科学技術の進歩と産業経済の躍目に値する発展と伸張は、誰れか今日の繁栄を想到し得たことか、まことに隔世の感無量のものがある。静かに徘徊して、この平和と自由と豊かさを噛みしめる時、よくぞと眼底の熱くなる私のみでなからう。ともあれ六回目の巳年、まず健康第一に。知足安分世にも人にも甘えずに、四恩に感謝しつつ老いの生甲斐を探り続けたいと思う。

## 南十字星の下で

福本 豊（小松島）

新年の思い出として、いつまでも記憶に残っているのは、やはり太平洋戦争のさなかに赤道に近い常夏の国マレーシアで迎えた、正月の印象であると思う。戦争当時の南方派遣軍の軍政監部に従軍勤務を命ぜられた私は、歓呼の声に送られて祖国を後に、遠くマレーシアの現在の首都クアラルンプールにあった電政管理局へ赴任したのである。

管轄の電報電話局に勤務する職員は、ほとんど現地人であったが、彼等は概して勤勉であり、通信技術、事務計算能力にも優れており、女子職員は南国育ちらしく、明るく快活で好印象を受けたのであった。そのころまだ若かりし私の心を引く、つづらな瞳のかれんな女性もいたのではなかったかと思っている。熱帯の燃えるような太陽が、ジャングルの中に沈んで夜のとぼりがおりると、涼風がそよいで降る星空に、南十字星が夢のようにき

らめいている南方の夜は、まことにロマンティックで、前線で展開されている激烈な戦闘のことも一瞬忘れるのであった。

日を追って、不利を伝え寄せる各方面軍の戦況に胸を痛め、緊迫した情勢下において、飛び交う螢の光に、はるかに故国をしのんで、妻子の身上に思いをはせながら迎えた南国の正月情景は、現地人職員と過した南方従軍生活の追憶と共に、いつまでも忘れ得ない感動的な思い出となって、私の脳裏から離れないのである。

## 思 い 出

三島 富二(徳島)

大正十年大阪通講徳島支所を卒業出向命令で現大阪中電に配属され昭和三十九年四月迄四十三年間一日も休まず健康に恵まれ電信電話事業に少なからず尽せた事を今更の様に喜ばしく思っている。私が入局した大正十年の大阪は欧州大戦後の爆発的景気で商都大阪は沸きに沸いていた。或商事会社がボーナスを三十二ヶ月分出したのも此の頃である。

昭和九年大阪湾を襲った関西風水害に大阪の誇る八百八橋の川筋は水が溢れ殆んどの人家は水害に見舞われ多数の死傷者及家屋の流失倒潰あり、その見舞電報が殺到、第一日六十万通、二日目四十万通で計百数十万通を取り扱った。之は世界の新記録であった。

私が支那派遣軍第五航空無線通信隊へ従軍したのは昭和十八年の秋であった。本隊は中支南京で約三ヶ月軍通信の訓練を終了し台湾へ分隊で派遣嘉儀で任務に従った。米國が何月何日レイテ湾を爆撃すると放送し其の期日をたがわず占領したので米國の力をまさまざと見た。数日後台湾沖海戦が始った。日本軍

は一步も引かず海空中戦で撃退した。敵は艦艇二百飛行機百機勝負目なしと見たか其の鋒先を沖繩へ向け沖繩を占領した。其の後南京へ帰還準備中陛下の放送を聞いた。以後支那全土の復員名簿作成の任務に付いた。任務優秀が認められて復員、支那派遣軍総司令官陸軍大将岡村寧次閣下より表彰状を貰い中電に復帰、昭和十八年四月叙従七位勲七等を載き今日に至っている。

本年は当り年で何か好い事がありそうであるが私自身は今迄通り安泰の年でありたいと願っている。

## 老いらくのつとめ

路倉ただお(高知)

先頃私達は通講第九期生の同窓会を催した。集う者六名。私の他は最近特定郵便局長を退いた諸君で〇君とは実に五十三年振りの再会であった。他の連中とも二十数年逢ってなかつたが何れも頭髮は冬木立よろしく透けて地肌が輝き顔には深く皺がのびて当時の可憐な少年の俤はない。でも抱き合ってお互の健在を喜び合ったものだった。私達の同窓生は二十一名いた。間もなく部外へ去った三名の消息は現在誰も知っていない。ただ悲しいことに若くして鬼籍に入った十三名の友があるのが痛惜に堪えない。今日のような混濁した世相と騒々しい環境に生きていく吾々には古き良き時代が懐しく夫々の思出話を時を過ぎ予定を三時間も経てまたの日を約して散会したことでした。

時は在学中の或日私は通信実践室の高知側で電鍵を叩いていた。大阪側の呼出して集音函に耳を傾けていると「今朝十一時五十分頃関東地方に大地震あり東京は全滅した」とい

うのである。私は誰かの冗談で作った電文だと思つた。だがそれが事実とわかり大変な騒ぎとなった。

この大惨事は地方の人心をも不安にかりたて、市民の間でもいろいろなデマが流れはじめた。「浦戸湾の潮流に変化が現れ今夜半頃に高知地方に地震が起る」などで気の早い市民の中には家財を纏めて避難を急ぐ者まで出るといふ騒動となったものである。これも笑えない当時の思出の一つであるが地震の怖しさは昔も今も変わらないであろう。因みに第九期生とは大正十二年十月の高知通信講習所卒業生である。

## 大正時代の物価

横山 竹義(松山)

巳の年生まれの人とし新年号の記事をたのまれた。還暦には生まれた年の干支が廻ってくることは十分承知していたが、古稀もすでに過ぎた今では何の年であれ少しも気にかかっていなかった。よく考えてみると生まれ明治三十八年は巳年であるが、それから巳年には七回廻り合ったことになる。年号も明治、大正、昭和と変わり、世の中も戦前、戦中、戦後と非常な変わり方である。巳の年から次の巳の年までの一回転は同じ十二年間であっても、ある期間は緩やかにある時代は急激な変遷があった。

私の今までの生涯の中で、二回目の巳の年くらいまでの記憶は、霧の中に一束になつていくような感じで残っていない。先日この原稿を書くに当って古い記録をさがして古本の中から二回目の巳の年から四年後の大正十年の家計日記(出納簿兼日記帳)を見つけた。なつかしく面白いので原稿のことなど

忘れて一頁(一日)ごとに読み當時を偲んだ。ご参考までに当時の物価をご披露する。私は大正十年の元旦を日給六十三銭の通信事務員で迎えたがその辞令は今も宝物として大切に保存している。

葉書一銭五厘蜜柑水二銭焼芋(一盛)二銭入浴三銭うどん五銭ラムネ五銭齒磨粉十銭活動写真見料十銭花王石鹼十五銭散髪十五銭麦稈帽三十八銭座蒲団(一枚)七十銭高松琴平間汽車賃(三等)七十四銭万年筆二円鳥打帽子二円六十銭下宿代(一か月)十五円マント十八円五十銭家計日記五十銭。

### 老化への抵抗

今田 謙三(鳴門)

人生僅か五十年と言われた昔に「四十、五十は、はな垂れ小僧、男盛りは七、八十」と書店で開いた本に書かれてあったのを四十年後の今日でもはっきりと思い出されます。そして現在では全くその通りだと思えます。現行代版に直せば「五十、六十は、はな垂れ小僧、男盛りは八、九十」とでもなるのでしょうか。人間、長寿を全うしたいものです。

長年勤めた公社を停年退職すると無事勤めを終えた満足感と安心感とが交錯して人生を卒業したような気持ちになり隠居気分が知らぬ間に心の隅に存在するようになり一層老化を早めることとなるのではないのでしょうか。

さて、老化に抵抗し若さを保つ方法は無いものかと考える昨今です。老化はその人によって違い八十才を過ぎてても六十代にしか見えない人もありますが、きっと若さを保つための自分に適応した何かを実行されているのでしょう。若さを保つ方法として言われていることは、趣味を持ち毎日の生活に生甲斐を感じる。

じる。いつも明るい気持ちでよくよしない。適当に体と頭を使う。適当なお洒落をする。若い人と交際する、等他にもいろいろありますが先輩諸兄にはそれぞれ若さの秘訣を実行せられていることと思えます。翻って何もできない私は健康の一助にと毎朝ブラシの全身摩擦と五分間体操をやっています。

### 年のはじめに

岩田 春男(志度)

明けましておめでとうございます。昨年は一年をつうじ「ロッキード」事件、大雨災害等いろいろ暗い記憶のみの残る年でした。新しい「み」の年を迎え今年こそ明るい年でありませう祈るものです。

人間の平均寿命は昔にくらべ約二十年も長くなってきているそうですが病院と言う病院はどこも患者が溢れています。平均寿命は延びたと言っても必ずしも健康ではないようです。健康こそ人生最大の幸福と考えます。

私も今年「み」年生れの六十才世に言う老人の部にはいりませんが健康には十分注意して病気をしないよう留意することは勿論、病は気からのことわざもあるので趣味として植木の「いろは」から習い又好きな野球見物等で気分転換に努めたいと考えています。電友会の皆様にも健康で幸福な、よい年でありませう、お祈り申し上げます。

### まず健康

上田 良春(多度津)

目覚めの瞬間、ふと浮んでいた出勤時刻の気づかぬもなくなり、在郷軍人十カ月目がきた。時折り出会う先輩の笑顔がなんとなくほおえましく、励ましをうける。

久方振りの開放正月で、年末始繁忙もなければ休暇とも無関係という、至って平凡なものではあるが、身心ともに晴天で元旦を迎えることのできたことを何よりと感謝している。開放された自由が、健康をマイナスしないよう点検、整備、確認を怠らず、希望のある人生街道を、巳の年にふさわしく長く、安全運転を続けたい。特にこれからは、今日を喜び、明日を楽しむ人生を自分で見つける努力をしなければならぬと思っている。それが即、健康を保ち、老化防止に役立ってであろう。その昔、「まず健康」の標語賞金は当時の十万円という超高額なものであったとか？

### 辰巳同期会

高木 靖登(北条)

明けましてお目出度ございます。皆さんもお元気で新年を迎えられた事とお喜び申し上げます。

私も今年巳年で還暦を迎えました。早やいものですね還暦までには、ほど遠いものと思っております。この日を迎えて老いたるものかと感じさせられます。

しかしながら気分はいたって若く体力も十分でまだまだこれからだと張切っております。一応人生の節でもあり今日まで健康で過ごしてこられた事を家族とともに喜んでおります。この喜びを共に祝うべく辰巳会では昨年に引き続き今年も特別な慶祝行事を計画しております。今から楽しみにしております。

辰巳会とは同期会の名称で、そのわけは辰巳年生れの者が集まっているためこのような会名にしたのであります。

会は、昭和四十二年から始まり今年で十一回目で卒業時四十二名だったのが戦争の犠牲等で二十四名亡くなりました。

例年今治で開催し会次第が進むにつれてお互いの健康のことや、子、孫の話から始まりですが殆んどの方がタオル業や造船業等いろいろの事業を営んでおられる者が多く業界の施策の認識やら金融面の現況および景気の見通し等元気のよい意見のやりとりでこれが還暦を迎えた者とは思えない活気のある会合であります。私は事業はしておりませんが意気投合し愉快に楽しく一日を過ごし、また逢う日をお互いに約束して別れております。

### 苦しかった満洲

木野戸繁行（高松）

東安省密山縣の満ソ国境で凍てつく零下四〇度の真夜中、ソ連領地の監視任務をおびての歩哨勤務、一時間交替の立哨がどんなに長かったことか、休みなく足ぶみをして寒さに耐え、物音一つしない広野で、美しく輝く星を見ながら、なつかしいふるさとを思い浮べていた。昨日のようにはつきり憶えているのもう四十年に近い歳月が流れ去っている。雪どけ水でとめどもなく広がる河、堤防のないウスリー江の支流は、広い草原を見る見るうちに沼にし、川にしてしまう。チチハル郊外の早春。満州の思い出は苦しかった兵隊生活。楽しかった軍属生活とともに、私の人生の大きい部分をしめている。

過ぎ去った六十年、私にとって幸せであったと両手でしっかりと受けとめるとともに残された人生がどれだけあるか知らないが、私は他人のために、社会のために役立つ人生を過したいと願っている。

### 逆年をとる

豊崎 理平（徳島）

あけましておめでとうございます。公社を卒業いたしました約三年を経過しましたが、お蔭様で毎日元気に働いております。

処で私は元来占いなどは信用しない方ですが先日子供の星占いの本を何気なく見ておりますと、六十才という年は大凶不運の年と書かれております。そこでヨシ大凶不運の年というからにはこれ以上悪くなることはないののでこの年を機会に気分転換をはかり心の持ち方として今年は六十才、来年は五十九才と、これから毎年年をとる（引く）ことにきめ、いつまでも若々しい気持ちでおりたいものだと思っております。

ありふれたことですが私が十数年来自分も心がけ四人の子供にもシツケてきました我が家のモットー「幸福になる言葉」をご披露いたします。

- 一 はい（素直な心）
  - 一 すみません（反省の心）
  - 一 おかげさまで（謙譲の心）
  - 一 させていただきます（奉仕の心）
  - 一 ありがとうございます（感謝の心）
- 以上五つの言葉と心を生活信条として今後努力したいと思っております。
- 卒業者の皆様がいままでお元気でおしあわせであることを心からお祈りいたします。

### 無銭旅行

福井 数由（徳島）

暦学では巳年生れの人は一生生活には不自由がないが、執念深い、と占っている。昭和さて私の人生をふりかえってみよう。

十六年に僅か一銭五厘の命により中国タイ国ビルマまで旅行し各地を見物できたのも曆が示す巳年生れなればこそと、自負したい気持ちである。が、その裏街道は苦戦苦闘の毎日。明日は無い生命を祖国永遠の安泰のために闘ってきたのです。

私の戦友も死の極にポケットから紙片を出し、私の手を握った力はすでに弱々しくついに息を引きとっていった。その紙片の内容は「元氣に行つて来いよ」の聲が僕には最後に聞く言葉で二度と母国の土を踏まない覚悟で立派に恥じない働きをします僕を今日まで育ててくれたお父さんお母さんありがとう、さようなら、と書いた遺書であった。

あの激戦中いつの間にか書いたのだろう。私も同じ環境の中で「数由元氣に行つてこいよ」と笑顔で送ってくれた父母の顔が忘れられず戦火の暇をみて私も書いた。（お母さん僕は必ず元氣で帰って来ます万一死んでも「魂」でお母さんの膝元へ帰ります）、と、二枚の紙片を自分のポケットにそっとしましたものでした。一口に言って運、不運といえどもそれまでだが私には生きるのだという執念が二人を区別したのでしょいか。私も負傷はしたが死別した戦友の冥福を今なお祈っています。その後、執念の実は結んだのか無事公社を退職現在再就職をしているが、冒頭に書いたように何事もユーモアに人生をたのしく表街道を旅行し続けたいと思っております。

### 巳年への願い

藤田 尚輔（高知）

新年おめでとうでございます。平素は諸先輩のご援助に支えられ、お蔭さまで再就職先でも健康に恵まれ、仕事に、スポーツに充実し

た毎日を過しており、心から感謝していません。何回目？のお正月を迎えますが、今年辺りから、年令に応じた行動をと反省しています。易学では、巳年生れは「金に縁あり、一生金には困らない」と記されていますが、秋生れの私には最低のご利益しか与えられていないようです。しかし私の若い頃の極秘の話ですが、或る行きつけの小料理屋を訪れる度毎に「貴方が来て呉れると、不思議とお客が多く、お店が繁昌する」と割引付サービスで煽てられさせと通った揚句、借銭と共に足が遠く結果となったが、相手さんは確かに繁昌しました。他人に益した意味では易学に言う「金に縁あり」は当を得ているのでしよう。話は少し大きくなりますが、数年前の石油ショック以来、わが国経済は横ばい乃至落込み成長で、安定成長と呼ばれています。不景気風が身に滲みる数年でした。他人に益するものであれ、金に縁ある巳年の今年こそ、景気回復の明るい年でありませう、易学の信憑性を示して欲しいと願って止みません。

## 還暦と人は言うけど

政本 邦興 (松山)

四十八年、五五才で公社を退職、第二の人生に急転換、その後の計画を立て直しと心の平静を求めて、毎日近くの山をかけめぐり、山頂に一人寝ころんでは青空を見上げ視界を見下し、心の整理と思索にふけたのも今ではなつかしい思い出。もった金の価値の変わらぬ間に、心と生活の拠り所、希望の巣づくりに着手したが、折悪しくインフレと狂乱物価に傾いされ、終始ハラハラ・イライラ、それも一年近くかかって辛うじて完成したものの、その間、外にあっては第二の職場での

対応・吸収と内では新築造営による心労で、急速に白髪が目立ち人生の悲哀を思い知らされる。還暦と人は言うけど、気は今も至って若い、どうせ長くはないこれからの人生、ワビとサビとが痛切に感じとれる今日この頃である。今日只今、刻一刻の些事も大切に、味わい楽しみながら生きていきたい。

「天地自然の摂理に順応し、神仏を信仰し、自己に内在する生命の実相を自覚し、常に心に感謝の念を抱いて、自から健康にして総てのものと調和し、いついかなることに動じない安心立命の境地を開く、他面、実生活は現在及び将来に対し科学的且合理的に、しかも現実には即し無理のない、希望と向上に輝き、過ぎてなお憾みを残さない真に健全充実、安定したものに築きあげたい」 (愚作、私生活のピジョンより)

## 訓練のおかげで

柳川 貞光 (室戸)

昭和二十九年に中央学園へ訓練に行った時のことです。ある日業務部電信科に勤めている娘さんが、私に会いたいという人がいるというので会ってみると、奈良海軍航空隊当時の予科練生で、私がトンツツを教えたことのある河野という男でした。先日学園構内で偶然に私をみかけたというのです。NHKに勤めているが、構内の宿舎にいる公社職員の兄と同居しているとのことでした。数日後河野君が同期生数名に連絡をとり、予科練時代の分隊長山野辺さん(元横綱常ノ花、当時相撲協会理事長出羽ノ海の長男)の管理する両国の出羽ノ海部屋に集まり、盡きぬ思い出に時の過ぎるのを忘れたことでした。その後東京学園へ行った時は山野辺さんか

ら出羽ノ海部屋に招かれ、出羽一門の総合稽古を見せてもらい、終って横綱千代の山らと一諸にちゃんこ鍋でご馳走になりました。

私の受持った第十四期甲種子科練生は十数年前から毎年懇親会を開いておられますが、八年前の浜松大会と昨年の天理大会(彼らの揺籃の地)には私も出席しました。

一昨年は山野辺さんと教え子二名が、高知の皿鉢料理を食べにといつて、ライセンスをもつ森谷という教え子の操縦する小型機で飛来し、久しぶりに歓談しました。

彼らとの交友は生ある限り続くことと思いますが、これというのも公社で訓練に出してもらったおかげと感謝しております。

## 俳句

菊 薫 る

三 島 花 人 (徳島)

草の戸へ柿のたわわに夕日照る

菊の香や天皇在位五十年

色鳥や庭木移りに隣より

除 夜 詣

玉 川 つとむ (松山)

奥宮に年行く篝奉る

三つ星をいたたく千木や除夜詣

槽燻り雪沓乾く土間暗し



隨筆

長 生 き

田 中 義 隆 (松山)

宇和島へとついでいる娘が、すでに三児の母になった。その三人目の孫が、うれしいことにわたしと同月同日の生まれである。

「こんどの孫は、わしの誕生日に生まれるぞ」と予言していた。むろん一種の予感だったが、見事に適中したのである。女兒だったその孫娘も満一才になり、元気で育っている。やがて美人に成長して、わたしをお茶のみに誘ってくれるまで、生きていたものだ。歌人の吉井勇が、「長生きも芸の内」ということばを、落語家の桂文楽に教えた。(大西信行著「落語無頼語録」)。そして著者は、長生きした者にしかできない「枯れた芸」の境地へ、文楽に達してほしかったと書いている。

長生きして「枯れる」ということは、しなびることではあるまい。アクが抜けて、自在になることではないか。そうでないと、孫娘がどこへも誘ってくれはすまいと思う。

つらゆきさん

栗 田 信 雄 (松山)

八月二二日高縄山からの帰りに北条市立岩に下りて紀貫之の跡を訪ねる。水泳帰りの子供にその在り所を聞くと、ちょっと首をかしげていたが「ああ、つらゆきさんじゃ、それならこの上じゃ」と北条市立立岩小学校の前の小山を指してくれる。夏草を分けて登るこ

と十五分、方一間ほどのお堂につく。これが紀貫之の墓所といわれているものである。お堂の内には三体の地藏と二基の五輪塔がおかれてあり、お賽銭箱とローソク、線香を入れた箱がある。お詣りに来る者があるのであろう。お堂の前には高さ一丈ほどの碑があり前面には「奉建立貫之尊靈九百五十回忌報恩正覚也」左面には「明治二十九年十一月吉日蓮生寺性範」右面には貫之の歌といわれる「けふ祭る神のころやなひくらん卯月に匂ふ花垣の里」の一首がきざみこまれている。

トマトの手入れをしていた老人に尋ねると土佐の国司であった貫之が晩年国津彦神社に参詣のため伊予に入りこの地(花垣の里)の風景を愛し、しばらくここに滞在していたが病気のため死んだのでこの地に葬り、毎年八月二十四日にまつりを行い霊を慰まめているとのことである。しかし史実によれば貫之は土佐での任務を終え承平四年十二月二十一日出發翌年二月十六日京に帰っている。その間の日記があつた「土佐日記」である。そうだとすれば貫之の伝説は怪やしいものである。

ちよつと失礼

原 昭二郎 (高松)

この一筆は、あるいは編集者に一寸失礼なのですが、私をよく知っていただく方なので、赦していただけるかと思ひます。

それは、前号の「会員消息」の私の文のタイトルが、「本来人間は無か」となっているのを見て、私はビックリしたのです。たしか「寸感」くらいだったように思ひます。私にとても、このようなタイトルを付けることのできる人間ではないのです。また逆に、こんなことを気にして失礼を言ってみる程度の人

間であるということなかも知れませんが、…… 実は少し気はづかしいのです。それから、末尾の方で、「年令かな、さもあらば、」は、私の書き違いかも知れませんが、「年令かな!? さもあらばあれ」の筈でした。独善的な甘えた言葉なのですが、少しもの足らないのです。

自分の都合勝手多謝。

(年令かな、さもあらばあれ)でした、  
乞ご容赦。 編集子

会員消息

藤田 基孝 (松山)

- 一 七二才(もうすぐ七三才)、三七年退職現在仕事なく、浪々の身です。
- 二 家族は老夫婦のみにて、三人の子は夫々家庭を持ちて独立別居、孫等八人も共に健在です。
- 三 趣味には当らないでしようが、旅行と短歌が好きで、年間六十日位は家を空けて旅寐の果敢無き夢を貪って居ます。
- 四 短歌はアララギに所属して目下勉強中にて、地元各歌会に出席する外、毎年八月の東京夏期歌会に参加して居ます。
- 五 健康状態は概ね良好ですが軽き糖尿病がありますので月に二、三回検尿を受ける外、年間二、三回は健康診断を掛りつけの内科医に受けて健康管理をしてもらいます。
- 六 その他日常生活は飯を一膳三食、晩酌は蒸溜酒(焼酒、ウイスキー等)とし、饅頭、菓子等甘味品を避け間食を排し専ら百歳の天寿を全うすべく頑張つて居ます。

短 歌

桐箱の三味

山 内 旬 一 (松山)

桐箱の二つの三味よその一つつひに習はず吾  
老ひにけり

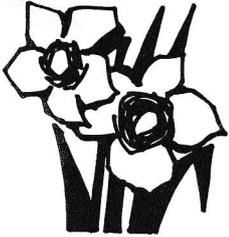
蜜柑箱今日も届きぬ大き果をそろへたまふは  
いつものごとく

紅のほほづき五つ六つのこる今年は誰にもわ  
かたずにくぐ

○ 電話番号の変更について

電気通信共済会の電話番号が次のとおり変  
更になりましたのでお知らせします。

- 四国支部 (〇八九九) 三三三三三二(代)
- 香川営業所 (〇八七八) 二二二五二一(代)
- 徳島営業所 (〇八八六) 五二二六三二(〇)
- 〃 (〇八八六) 二二二四一九一
- 高知営業所 (〇八八八) 八三二四二四(代)



余 栄

ご逝去されました左記の方々に対し多  
年電気通信事業に貢献された功績により  
叙勲がありました。

- 正五位 (五一、二、二八)
- 故 江東 利保殿 (鴨 島)
- 勲八等瑞宝章 (五一、四、二九)
- 故 伊藤 実殿 (室 戸)
- 正七位勲六等瑞宝章 (五一、五、二六)
- 故 光家 輔一殿 (善通寺)
- 正七位勲六等瑞宝章 (五一、五、二八)
- 故 金原 巖殿 (今 治)
- 従六位勲六等瑞宝章 (五一、八、一〇)
- 故 高井 秋芳殿 (鳴 門)
- 勲七等旭日章 (五一、八、一四)
- 故 石本 嘉秀殿 (高 知)

訃 報

次の方々が亡くなられました。謹んで  
哀悼の意を表します。

氏 名	死亡月日	行年	所 属
玉井利満	51・10・1	六八	八幡浜
大川勝善	51・10・2	六五	伊 野
堀内哲夫	51・10・17	六一	松 山

投稿規程

- 一 会員消息 四〇〇字以内
- 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
- 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 二月一〇日
- 原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

▽明けましておめでとうございます。  
ロッキード問題に明け暮れ、加えて師走の衆  
議院選挙とまったく忙しい一年でした。それ  
でもご本家の一大事の公衆電気通信法等の一  
部改正が遅ればせながら国会を通過し十一月  
十七日から実施の運びとなったことは、ご同  
慶に堪えません。  
▽巳年は語るの玉稿多数いただき定めのペー  
ジでは載せ切らないので特に二ページ増の一  
四ページ版としました。  
▽今年には参議院選挙の行なわれる大事な年で  
す。年老いて僅かの年金を頼りに物価高にあ  
えぎつつ細々と余生を過している者に最も理  
解を持つ人には是非当選してもらって、古い先  
短かい私達に明るい光を与えていただきたい  
ものと念願してやみません。(玉川)

電友会四国連合会会報 第一七号

昭和五二年一月一日発行  
編集発行 電友会四国連合会 局  
事 務 局  
松山市一番町四丁目(千七九〇)  
四国電気通信局内  
電話(〇八九九)三六一二〇二三  
印刷 四国電話印刷株式会社